



## 市・無形民俗文化財

### かくま かな おど 鹿熊の刀踊り

魚津市鹿熊（鹿熊刀踊り保存会）

鹿熊地区に古くから伝わる刀踊りは、2人1組を基本に4人から10人で踊られる。この踊りは棒踊りの一種で、棒や刀の霊力で悪魔を鎮めたり、祓<sup>はら</sup>ったりするなど宗教的な意義があるとされる。刀踊りが独立して、舞踊として成立しているのは県内では珍しい。

上演は不定期で、かつては地区内の祝い事の席で演じられていた。屋外では落成祝いの柴舟等、屋内では結婚式等で披露されていたが、近年では戦国のろしまつりなど、松倉地区の行事で定期的に公演されている。踊りは手踊りと刀踊りの組み合わせで、「川崎」、「しぼり」、「古代神」にあわせて踊られる。衣裳は紋付きに袴を着用し、刀は戦前には短い道中刀であったが、現在は居合い用の模造刀を使用している。

言い伝えでは、刀踊りは家督を継ぐ長男のみにしか伝承されなかったが、昭和以降は地域の青年に継承しており、上演も青年達である。